



平成30年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2538 URL http://www.j-fla.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 檜垣 周作
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 杉 義継 (TEL) 06-7688-5900
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第1四半期の連結業績(平成29年10月1日~平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第1四半期	9,174	39.4	252	△29.8	130	△45.0	86	△37.3
29年9月期第1四半期	6,579	△10.1	359	6.7	236	△8.0	137	229.6

(注) 包括利益 30年9月期第1四半期 90百万円(△49.4%) 29年9月期第1四半期 177百万円(759.7%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
30年9月期第1四半期	0	48	0	41
29年9月期第1四半期	1	13	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第1四半期	29,370	—	8,389	—	28.5	—
29年9月期	28,271	—	8,289	—	29.3	—

(参考) 自己資本 30年9月期第1四半期 8,362百万円 29年9月期 8,273百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
29年9月期	—	—	—	0.00	0.00	—
30年9月期	—	—	—	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日~平成30年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	17,200	41.3	300	△3.3	90	△30.8	10	△79.0	0	06
通期	34,000	26.6	400	15.7	100	77.8	50	△56.9	0	28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年9月期1Q	179,478,870株	29年9月期	179,478,870株
30年9月期1Q	47,131株	29年9月期	47,130株
30年9月期1Q	179,431,740株	29年9月期1Q	122,244,390株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に緩やかな回復基調が続きました。一方で、個人消費の低迷や政治情勢の不確実性の高まりから、国内景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、依然として企業間競争が激しく、生活必需品に対する低価格志向が継続しており、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは平成29年10月1日付で酒類製造販売事業を営む銀盤酒造(株)、佐藤焼酎製造場(株)及びヨーロッパの食材・ワインの輸入卸販売事業を営む(株)アークを連結子会社化し、事業規模の拡大を図りました。グループ全体の施策としては、既存顧客の深耕、新規顧客の開拓、新商品の導入、注力商品の拡販等を掲げ、売上高及び利益の向上に取り組みました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,174百万円(前年同期比39.4%増)、営業利益は252百万円(前年同期比29.8%減)、経常利益は130百万円(前年同期比45.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は86百万円(前年同期比37.3%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、平成29年3月1日付にて、東洋商事(株)及び小林産業(株)を連結子会社化したことにより、前第3四半期連結会計期間から「国内食品類・酒類卸売事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

(食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、業務用の大口顧客向けが堅調でしたが、家庭用の主力商品「マルキン こいくちしょうゆ 1L」「マルキン うすくちしょうゆ 1L」が苦戦したこと等により前期の売上を下回りました。

つゆ・たれ類につきましては、業務用が苦戦したものの、家庭用の新商品「盛田 国産名古屋コーチンうまだし鍋つゆ 600g」「イチミツボシ 阿波尾鶏スープ塩鍋つゆ 750g」が堅調だった他、既存商品の「マルキン 大阪うどんすき鍋つゆストレート 750g」「盛田 国産紅ずわい蟹だしうま鍋つゆ 750g」といった鍋用つゆストレートパウチ商品も好調だったこと等により前期の売上を上回りました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、家庭用の主力商品「盛田 料理酒 1L」「盛田醸造みりんタイプ 1L」が好調だった他、付加価値商品「盛田 国産米100%純米料理酒 500ml/1L」も売上を伸ばし、前期の売上を上回りました。

漬物につきましては、なら漬の主力商品「忠勇 あっさり味なら漬(胡瓜) 120g」や伝統製法の商品が堅調に推移したこと等により前期並みの売上になりました。

飲料につきましては、主力商品の「ハイピース 加賀棒茶ほうじたて 330ml」や新商品の「ハイピース 和栗の紅茶 350ml」が順調だった他、PB商品も好調に推移したこと等により前期の売上を上回りました。

日本酒及び焼酎につきましては、輸出が好調だった他、平成29年4月より連結子会社になった千代菊(株)及び常楽酒造(株)、平成29年10月より連結子会社になった銀盤酒造(株)及び佐藤焼酎製造場(株)の寄与があり、前期の売上を大きく上回りました。

本みりんにつきましては、家庭用が好調で業務用も堅調だったため、前期の売上を上回りました。

この結果、当事業の売上高は4,065百万円(前年同期比13.9%増)、セグメント利益(営業利益)は205百万円(前年同期比10.1%減)となりました。

(輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、冷凍パンの「ブリドール」は新規獲得及び既存顧客のアイテム数増等により引き続き好調を維持しております。フランスのジュース・ジャムの「アラン・ミリア」もホテルや婚礼宴会を中心に売上を伸ばしました。トリュフは黒トリュフ・白トリュフともに順調に推移しました。しかしながら、フォアグラ・家禽類が欧州での鳥インフルエンザの影響で調達に滞り、全体としては前期の売上を下回りました。

製菓用食材につきましては、主力商品「Kiriクリームチーズ」を使用した新商品が既存取引先から発売された他、新規顧客開拓も堅調に推移したものの、全体としては前期の売上を下回りました。

小売用商品につきましては、拡販に注力しているスペイン産の高級ポテトチップス「トーレス」やフランスを代

表するビスケット「サンミッシェル」が順調に売上を伸ばしたものの、全体としては前期の売上を下回りました。

ワイン類につきましては、主力商品の一つであるシャンパーニュ「アヤラ」が新規獲得や婚礼需要、試飲プロモーション等により売上を伸ばした他、イタリアワインやカリフォルニアワインも順調に推移したこと等により前期の売上を上回りました。

この結果、当事業の売上高は2,741百万円(前年同期比5.4%減)、セグメント利益(営業利益)は106百万円(前年同期比43.8%減)となりました。

(国内食品類・酒類卸売事業)

業務用食材につきましては、鶏肉、油類の拡販やフレンチ・イタリアン業態の新規開拓を進めましたが、取引先の廃業や大口取引先の需要減もあり伸び悩みました。

デリカにつきましては、鶏モモ肉の販売が好調でしたが、週末の天候不順によるスーパーの集客への影響もあり苦戦しました。

外食につきましては、居酒屋や焼き鳥業態が新規出店もあり、堅調に推移しました。

通販につきましては、集客強化に向けたリスティング広告や新規チャネルの活用等により、新規顧客の売上が順調に伸びました。

医療・介護食品につきましては、既存顧客への売上は順調でしたが、取引終了になった先もあった他、流動食や高級食材の需要減もありました。

この結果、当事業の売上高は2,253百万円、セグメント利益(営業利益)は8百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、受取手形及び売掛金が1,600百万円、商品及び製品が233百万円、仕掛品が259百万円増加し、現金及び預金が1,997百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ93百万円増加し15,761百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が512百万円、投資有価証券が85百万円、のれんが399百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,004百万円増加し13,609百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ1,098百万円増加し29,370百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が459百万円、未払金が147百万円、未払費用が156百万円増加し、短期借入金が808百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ62百万円減少し16,720百万円となりました。固定負債は、長期借入金が944百万円増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,061百万円増加し4,259百万円となりました。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ998百万円増加し20,980百万円となりました。

当第1四半期連結会計年度末の純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益86百万円、非支配株主持分6百万円等により利益剰余金が増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ99百万円増加し8,389百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く環境は、今後も厳しい状況が続くものと予想しております。このような事業環境の中、既存の食品事業領域における着実な成長と、経営の効率化により財務体質の健全化を図ってまいります。

なお、平成29年11月10日付「平成29年9月期決算短信」にて発表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,641	2,643
受取手形及び売掛金	5,460	7,060
商品及び製品	2,843	3,077
仕掛品	1,550	1,810
原材料及び貯蔵品	482	664
その他	698	519
貸倒引当金	△9	△14
流動資産合計	15,667	15,761
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,793	6,927
その他(純額)	2,682	3,060
有形固定資産合計	9,475	9,987
無形固定資産		
のれん	1,642	2,042
その他	112	109
無形固定資産合計	1,754	2,151
投資その他の資産		
その他	2,006	2,120
貸倒引当金	△632	△651
投資その他の資産合計	1,373	1,469
固定資産合計	12,604	13,609
繰延資産	0	0
資産合計	28,271	29,370

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,711	4,170
短期借入金	10,554	9,746
1年内償還予定の社債	11	11
1年内返済予定の長期借入金	267	376
未払法人税等	75	117
賞与引当金	14	69
その他	2,149	2,229
流動負債合計	16,783	16,720
固定負債		
社債	1,200	1,200
長期借入金	853	1,797
退職給付に係る負債	190	220
その他	954	1,041
固定負債合計	3,198	4,259
負債合計	19,981	20,980
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,757	4,757
資本剰余金	10,125	10,125
利益剰余金	△6,865	△6,779
自己株式	△5	△5
株主資本合計	8,012	8,098
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20	26
為替換算調整勘定	△3	△1
退職給付に係る調整累計額	244	238
その他の包括利益累計額合計	261	263
新株予約権	16	20
非支配株主持分	—	6
純資産合計	8,289	8,389
負債純資産合計	28,271	29,370

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)
売上高	6,579	9,174
売上原価	4,697	6,883
売上総利益	1,881	2,290
販売費及び一般管理費	1,522	2,038
営業利益	359	252
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	0
持分法による投資利益	17	13
受取保険金	0	23
その他	14	37
営業外収益合計	34	74
営業外費用		
支払利息	84	54
為替差損	54	—
シンジケートローン手数料	—	90
その他	17	51
営業外費用合計	156	196
経常利益	236	130
特別利益		
固定資産売却益	—	2
投資有価証券売却益	0	—
災害見舞金	—	0
特別利益合計	0	3
特別損失		
災害による損失	23	—
その他	0	—
特別損失合計	24	—
税金等調整前四半期純利益	212	134
法人税、住民税及び事業税	59	67
法人税等調整額	14	△20
法人税等合計	74	46
四半期純利益	137	87
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	137	86

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	137	87
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	5
繰延ヘッジ損益	41	—
為替換算調整勘定	△0	2
退職給付に係る調整額	△1	△5
その他の包括利益合計	40	2
四半期包括利益	177	90
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	177	88
非支配株主に係る四半期包括利益	—	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。